

講義名	経済学入門		
科目区分	専門基礎		
担当教員	森脇 丈子		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2

主題と概要			
<p>わたしたちの生活は経済と深く結びついています。しかしそれらがどのように結びついているのかについては具体的に理解していないことが多いのも事実です。例えば、私たちが購入する商品には、国内で生産されたもの、海外生産で輸入されたもの、海外で生産された部品を使って仕上げられたものなどがあります。商品の生産や販売や消費は常に安定的に行われるのでしょうか。もし生産や消費が安定的でない場合があるとすれば、それらを引き起こす要因にはどのようなことが考えられるでしょうか。</p> <p>この授業では、経済ニュースが理解できるように、経済に関連する基礎的な用語や仕組みを学びます。また、毎回の講義の中で、受講生との議論をおこないます。</p>			

到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済の基礎的な用語を理解します。 2. 経済の基礎的な仕組みを理解します。 3. 日常的な話題を扱った経済ニュースの内容を理解できる知識を身につけます。 4. 国際関係をふまえた日本経済の動きについて理解し、自分の考えを持てるようにします。 			

提出課題			
<p>☆ なし。</p> <p>☆ 授業中に質問をたくさん出します。自分の考えをまとめて発言できるようにしてください。</p> <p>☆ 授業のなかでしばしば宿題を出します。次回の授業で口頭で発表できるよう準備しておいてください。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>「提出課題」の質問に対する発言と宿題に関するコメントをします。</p>			

評価の基準			
<p>授業での発言（30％）、定期試験（70％）による総合評価を行います。</p> <p>なお、履修者数によって、評価方法ならびに授業計画の一部を修正する場合があります。</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>☆ 授業のなかで学生に質問を出し、学生に意見を発表してもらいます。</p> <p>☆ 日頃から、新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事、企業活動や消費者行動などに関する情報を収集しておいてください。</p> <p>☆ 第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。</p> <p>☆ 授業中の私語ならびにスマホ等の利用、教室への勝手な出入りを禁止します。授業態度の悪い人には、退室を求めることがあります。</p> <p>関連科目として、次の講義の受講を勧めます。 【生活構造論、消費文化論、消費者問題論、NPO論、アミューズメント事業論】</p>			

教科書	
<p>・「使用しない」。</p>	

プリント資料及び参考文献	
<p>☆ 授業の出席者には、プリント、新聞記事を適宜配布します。</p> <p>☆ 〈参考文献〉 ・吉川徹(2018)『日本の分断 切り離される非大卒若者たち』、光文社新書 ・内田樹、藤山浩、宇根豊、平川克美(2018)『「農業を株式会社化する」という無理 これからの農業論』、家の光協会 ・塚崎公義(2015)『なんだ、そうなのか！経済入門』、日本経済新聞出版社、1,500円+税。</p>	

授業計画	
1.	ガイダンス、経済学は何を対象としているか
2.	日本の人口構造—人口構造の変化：都市への人口集中、単身世帯の増加
3.	家計消費と貯蓄—平均所得、金融資産の平均額、所得の格差
4.	雇用と失業—労働力人口、失業率、女性の就業率、増加する非正規雇用
5.	物価と地価—消費者物価の推移、地価の推移
6.	社会保障の現状—社会保障とは、年金制度とその問題点、医療保険制度
7.	少子高齢化問題—世代間格差の問題、労働力の不足
8.	企業の姿—事務所の状況、国際化する日本企業、日本的経営の特徴
9.	食料問題—国内の食料消費、国内の農業生産、食料自給率
10.	エネルギー問題—日本のエネルギー事情、エネルギー自給率、日本の電力需要
11.	金融の役割—日本の金融機関、経済活動の仕組み、貨幣
12.	貿易構造の変化—貿易収支の推移、輸出入品目の変化、主な貿易相手国、日本の国際収支
13.	戦後日本経済の概略(1)—高度経済成長期、バブルの時代、平成不況の時代、デフレ
14.	戦後日本経済の概略(2)—リーマン・ショック、欧州財政危機
15.	まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：	PBL（課題解決型学習）
イ：	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：	ディスカッション、ディベート
エ：	グループワーク
オ：	プレゼンテーション
カ：	実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>☆ 毎回の講義終了時に、次回の範囲とそれに関連する予習項目を提示します。</p> <p>☆ その日の授業で扱った内容を基にして、次回の授業開始時に復習問題を出します。口頭で答えられるよう準備しておいてください。</p>	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
<p>学生に直接発言してもらいます（授業中）。</p>	

実務経験の有無及び活用	
<p></p>	

備考	
<p>第1回目の授業ガイダンスに必ず出席してください。</p> <p>授業中の携帯やスマホの利用、私語など、授業態度の悪い人には退室を求めることがあります。</p>	